

## 中小企業の経営者よ、中長期計画を立案し技術経営

理事長 西河洋一

円安が進行し、一ドル150円に近づく勢いで変化している。国内産業の多くが、原材料を輸入に頼っていて、円安の影響と海外のインフレの影響をもろに受けている。販売価格の値上げが起きていて、この新しい激流を乗り切ることができないと企業の存続は厳しいものとなる。大きな不況が到来し、コスト増により、大きな企業ほど環境に耐えられなくなると予想する。真に中小企業にとっては大きなチャンスがあるものと思う。

これから、世界が崩壊されるような大きな混乱期に入り、物質価値重視の文明から精神価値重視の文明へ大きく変化が起きるのではないだろうか。

この変革期にうまく新しい激流を乗り切ることができれば、中小企業こそ革新的な成長戦略をつくり上げることが可能である。まずは、会社を取り巻く外部環境を観察し、状況を把握することである。そこに市場はあると考えている。

西河技術経営塾に入塾してくる経営者の多くが、成長戦略に基づく中長期経営計画をつくっていない。外部環境の把握も不十分だ。経営者は夢を持つ必要がある。その夢を具現化する会社の未来を描くことができていない。

まずは、実現可能なビジネスモデルを描き切ることだ。次に売上と利益に対して、3年間、5年間で実現する高い数値目標を設定することだ。高い目標があって、はじめて経営者として取り組むべき課題が見えてくる。

話は戻るが、円安が日本国家に対する成績評価であるとする、「失われた30年」といわれる低成長が原因である。低成長の原因をつくっているのは、国家ではなく成長を止めてしまった民間の企業にその原因があるといえないか。

中小企業には、伸び代がある。大企業ができない技術開発をすることで、小が大の市場に参入できる大変革の時代が到来している。中長期経営計画を立案し、実現するために必要な技術的な強みを社員と共に迅速に磨くことだ。

— 以上 —